

佐久市佐久つと支援金事業 自己評価報告書

		評価日	30年 3月 31日
団体名	佐久子育てわくわく団		
事業名	「さく*こども食堂」/「さく*親子カフェ」		
対象経費	226,209円	支援金額	77,000円

事業の目的・内容	<p>目的</p> <p>子どもの貧困や孤食・いじめ・虐待・不登校・子育ての孤立などの問題が増加する現代、昔ながらの「地域の子どもは地域で守り育てる」原点に戻り、「食」と「遊び(学び)」を通じて、地域ぐるみの子育てを復活させ、子どもたち(子育て世代)が安心して暮らせる社会を目指すことが目的である。様々な背景から、現在、どんな子(障がいを持っている子・貧困の子・不登校の子など)でも、安心して学べる・話せる(相談できる)・食事ができる多機能の居場所が求められている。我々は、地域のおじちゃんやおばちゃんと多世代の交流ができ、「心」も「身体」も「お腹」も満たされる「居場所」を作ります。</p>
	<p>内容</p> <p>●「さく*こども食堂」奇数月第4日曜日 ①7/30(日) 志賀下宿公会場にて開催 内容: 田んぼで泥んこあそび・じゃがいも掘り・学習支援・相談支援 ②10/1(日) 長野県望月少年自然の家にて開催 内容: 飯ごう炊飯・ネイチャーゲーム・学習支援・ワークショップ ③11/26(日) 野沢会館にて開催 内容: 信州サーモン解体見学(調理)・外あそび・学習支援・相談支援 ④1/28(日) 創練センターにて開催 内容: 佐久鯉を裁くのを見学(調理)・外あそび・学習支援・相談支援 ⑤3/25(日) 志賀下宿公会場にて開催 内容: 春探し(山散策)・学習支援・相談支援 ●「さく*親子カフェ」偶数月第4木曜日 ①8/24②10/26③12/21④2/22 創練センターにて開催 内容: 親子の触れ合い遊び(工作・リトミック・体操など)・調理・食事・交流タイム</p>

事業の活動実績	<p>●「さく*こども食堂」参加者総数(こども122名/中高生1名/大人72名) 各回参加人数 ①7/30(日) こども39名/大人21名 ②10/1(日) こども23名/大人20名 ③11/26(日) こども22名/大人10名 ④1/28(日) こども21名/大人14名 ⑤3/25(日) こども17名/中高生1名/大人7名</p>
	<p>●「さく*親子カフェ」参加組総数(のべ58組(122名(こども64名/大人58名)) 各回参加組数 ①8/24(木) 親子13組(こども15名/大人13名) ②10/26(木) 親子15組(こども17名/大人15名) ③12/21(木) 親子15組(こども16名/大人15名) ④2/22(木) 親子15組(こども16名/大人15名)</p>



事業の成果・効果	<p>地域の子どもは地域で守り育てる原点に立ち返り、シニア世代の地域ボランティアの協力の元、子どもたちは野菜の洗い方や切り方、揚げ方などを優しく教えてもらい、会話を弾ませながら調理をし、子育て世代の親たちは、昔ながらの伝統の作り方や食べ方をシニア世代から学ぶこともできた。核家族化や共働き世帯が増え、「食」に対する考え方が変化してきている中、「食」に対する興味や関心を抱き、普段の食生活にも活かせる「食育」を伝えることができた。「こども食堂」では、佐久の特産品でもある「信州サーモン」や「佐久鯉」の裁く工程を見ながら歴史や調理法を学び、「いのち」をまるごといただく感謝の気持ちを体験した。また、子どもたちは異年齢で群れて遊ぶことにより、自分より小さい子の手を引いて遊んだり、鬼ごっこの鬼を変わってくれたり…社会性を身につけることもできた。さらに、「道具を使わず仲間がいれば遊べる」をコンセプトに遊びを展開し、鬼ごっこやバナナ鬼、警どろなど…子どもたち全員で遊びを創出し、工夫して遊ぶこともできた。ゲームやスマホなどのメディア依存が叫ばれている現代、それ以上に楽しいあそびを体験することにより、あそびの引き出しの数を増やす事へ繋がった。こどもからシニア世代までが集い、楽しく遊び、楽しく調理し、みんなで食べることにより、心もお腹も満たされる居場所となった。また、「親子カフェ」では、0歳～入園前の親子が参加した。この時期の子育ては、授乳(卒乳)・離乳食・トイレトレーニング・発育・病気など、悩みや心配事を抱える親が多いため、子育ての先輩ママや、孫育てをするシニア世代が話しを聞いたり、同じ悩みを持つママ同士で話すことで解決へのヒントを導くことができたり、気持ちがリフレッシュできたりする居場所としてのニーズの高さを感じた。8月以降はキャンセル待ちがでた。子どもたちは親子で触れ合い遊びをしたり、指先をつかって工作をしたりして楽しんだ。季節に合わせた遊びを企画し、夏はペットボトルで水発射装置を作り水遊び、冬は鬼のパペットを作り鬼退治などを展開した。食事タイムでは、普段下の子(赤ちゃん)がいてゆっくり食べられないママも、スタッフが抱っこし、上の子とじっくり食事をとったり、なんだか賑やかだと、普段食べない野菜を食べられたり…。子どもたちにとってもママたちにとっても、身体も心もお腹も満たさせる居場所となった。地域の様々な世代が集い、安心して遊び(学び)、話し(相談)、食事ができる居場所(社会の受け皿)のひとつとして機能できた。</p>
----------	---

自己評価	事業は申請どおり実施できた	1 できた <input checked="" type="radio"/> 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 主な理由(3、4と答えた場合のみ)
	事業の実施によって、期待した効果をあげることができた	1 できた <input checked="" type="radio"/> 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 主な理由(3、4と答えた場合のみ)
	実施計画書と実績報告書の活動費の内訳について	1 ほとんど同じ <input checked="" type="radio"/> 2 多少の変更があった 3 大幅に変更している 主な理由(2、3と答えた場合のみ) *その他の必要経費として、保健所への検便検査料がかかった(370円×2名分=740円)。 *当初予想していた参加者数を超える参加があったため、分担金が増加した。
	その他、評価すべき点等	

※ 自己評価の欄は、番号に○を付けてください。評価は、客観的自己診断です。

今後の事業展開	<p>子どもや子育て世代の悩みやつぶやきにいち早く気づき、専門機関や行政に繋がれた方が良い場合に対応できるよう、専門職(例:保育士・助産師・保健師・児童精神科医・小児科医など)の方にも参加していただき相談支援に注力したり、行政との情報共有を図っていきたい。</p>
---------	--